

(コーディネーター)

続きまして、事業番号 31、自動車文庫運営事業についてご説明いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(説明者)

それでは、中央図書館から自動車文庫運営事業についてご説明させていただきます。枚方市立図書館は、中央図書館を核としまして、分館 7 館と分室 11 か所、それら固定施設を補完する自動車文庫でネットワークを形成し、一体となったサービスを行っております。平成 20 年度には、政令指定都市と特別区を除く全国の図書館の中で、枚方市の貸出冊数が約 430 万冊ということで、全国 1 位となっております。でございます。

自動車文庫運営事業につきましては、枚方市立図書館が開館しました、昭和 48 年 7 月から枚方市立図書館条例及び同条例施行規則に基づき、その愛称を「ひなぎく号」と命名して運行を開始しております。運営方法は直営でございます。

事業の目的は、自動車文庫を巡回させることにより、市内全域に閲覧、貸出、返却、予約等の図書館サービスを提供することを目的としております。

事業の対象は、中央図書館、分館などの固定施設を利用することが困難な地域、いわゆる空白地域の住民等を対象としています。

次に、事業の内容でございますが、当初は市内 29 ステーションを 1 台で巡回していましたが、昭和 49 年に 1 台を増車し、巡回するステーションは 40 か所になり、昭和 56 年にはステーション数は 53 か所に増加いたしました。その後分館、分室等固定施設が順次設置されたことに伴い、周辺のステーションの見直しなどを行い、平成 22 年度当初では自動車文庫 2 台（ひなぎく 1 号・2 号）で巡回するステーション数は 26 か所となっております。巡回する頻度でございますが、各ステーションとも 2 週間に 1 回。運行日につきましては、日曜、火曜、水曜、木曜、金曜の週 5 日でございます。業務の内容につきましては、先ほど申しました、本の貸出、返却、予約の受付、市内の福祉施設や、学校等への団体貸出の他、お話し会なども実施しております。当初図書館サービスの主力であった、この自動車文庫運営事業につきましては、現在では全域サービスを補完する役割となっております。

次に、事業の必要性につきましては、本市の図書館サービスは昭和 48 年当初から、全域サービスを基本として実施しており、図書館サービスの公平性を確保する観点からも必要であると認識しております。

平成 21 年度の経費につきましては、人件費と自動車の維持管理経費で、3,721 万 9,000 円、活動実績は巡回日数 251 日、貸出冊数 62,936 冊、予約受付件数は 5,022 件となっております。

また、事業の効果につきましては、自動車文庫の自動車数や貸出冊数はここ数年は減少傾向でございますが、平成 21 年 10 月から実施をいたしましたインターネット予約の予約受付本の受け取り場所としての需要は増加しておりますところでございます。

今後の事業の方向性でございますが、図書館サービスの公平性確保の観点から、自動車文庫事業は継続し、運用に当たりましてはより効率的・効果的な方法について検討を行ってまいりたいと考えております。

なお、比較参考といたしまして、大阪府内の人口 30 万人以上の堺市、東大阪市、豊中市、高槻市、吹田市の 5 市では枚方市と同じく移動図書館車による市内巡回を実施しております。そのうち堺市と高槻市は運転業務と貸出返却業務を、吹田市は運転業務のみを民間事業者へ委託しております。

最後になりますが、自動車文庫運営事業の補足説明といたしまして、次ページにあります 1. 図書館・分室の利用圏域と自動車文庫ステーションの図、2. 自動車文庫ひなぎく号の写真、3. ステーション別個人貸出冊数を掲載しておりますので、ご参照いただきますようお願い申し上げます。以上で説明とさせていただきます。

(コーディネーター)

それでは、この事業に関して質問のある方お願いします。

(仕分け人)

そもそものところなんですけれども、いわゆる空白地域という考え方について。これを導入されたのが、昭和 48 年度ってことで、その後は巡回ステーションを増やしたりですとか、昭和 56 年度、53 ステーションということなんですけれども、その間、そこから現在に至るまでおそらく公共交通機関が変わったりとか、そういったことで、何をもって空白とするのかと難しいのではないかと思ったんですけれども、その辺の検討はどのようにされてるんでしょうか。

(説明者)

空白地域の考え方ということでございますが、実際に今まで過去に調査してきた部分であるとか、住民からの要望、あるいはおっしゃってる交通機関の関係の生活動線なんかも含めまして、図書館を中心とする一定の範囲を設けて図書館の方で設定してきたものが利用圏域という考え方です。それ以外の所を空白地域と呼んでおります。実際には一定の距離を、中央図書館であれば、1,500m とか、分館になりましたら 1,200m、分室になると 500m といったような形で、参考資料の中で丸を付けさせていただいてるところを一応圏域と考えておまして、それ以外の所を空白地域とさせていただいております。

(仕分け人)

ということは、実際には、例えば公共交通機関が、ここはもうバスが通るようになったから、アクセスは容易であるだとか、あるいは電車が全然頻繁に走ってるので問題ないとか、そういったことは考慮に入れてなくて、距離で測って空白地域っていうふうにされてるんでしょうか。

(説明者)

一応距離は目安としておりますが、今言われてるような交通網の整備であるとかで、この圏域っていうのは変わってくることはあるかと思っています。

(仕分け人)

検討はされていると。

(説明者)

それらを含めたということになります。

(仕分け人)

含めてはいるけれども、今反映はされてない。見直しをしてないということですから、55年度から。ステーションの数の見直し、例えば本当にこの53ステーションが適切なのか、空白地域として、この53は適切なのかという見直しはこの後はしていないということですか。

(説明者)

自動車文庫事業の歴史みたいになるんですけど、一番初めに昭和26年、大阪府が広域の自動車文庫運営事業ということで、図書館ができていませんでしたので、巡回しておりました。

(仕分け人)

今のステーション数は26ですか。

(説明者)

今のステーション数は26ということでございまして、一番多いときが56で、分館とかができてきたことによって、ステーションの場所の見直しをしてきたということでございます。

(仕分け人)

ちょっとその手前の話から聞きたいんですけど、広域図書館サービスを始めたのが48年ということでしたね。そのときには図書館はいくつあったんですか。

(説明者)

そこで初めて図書館が1つできたわけです。

(仕分け人)

だから、その前は枚方市内に図書館はなかったんですか。

(説明者)

はい。

(仕分け人)

昭和48年。これもまた珍しいですが。今は順次色々造られて、これ見ると8つの図書館ということでもいいですか。

(説明者)

はい。中央図書館と分館というちょっと大きい図書館を含めまして。

(仕分け人)

普通はこういうのを造るとさっさと止めちゃうんですけど、止めなかったんですね。要は。皆さんが頑張ってる。

(説明者)

自動車文庫運営事業ですね。

(仕分け人)

ええ。図書館全体の人件費も含めた、つまり8つの図書館とか、その他諸々総事業費というか総予算といいますか、今いくらかかっていますか。8つの図書館があって、本を買って。図書館っていうのは、まあ色々箱もののお金もかかるけど、人件費もかかりますよね。いくらぐらい予算は。箱ものの減価償却費はいいですわ。とりあえずは。

(説明者)

平成21年度実績でございますが、図書館費総額ということで、9億8,138万円ということで決算額としております。

(仕分け人)

市民一人当たりいくらになるのかな。9億円も使ってらっしゃるわけですよ。大変お金持ちの自治体だなんて実感はしますね。

(仕分け人)

職員のところで教えていただきたいんですけど、この自動車文庫に正職員の方が乗って行っているということは、司書の方が乗ってらっしゃるのでしょうか。

(説明者)

司書もおりますし、資格を持たない者も乗っております。

(仕分け人)

事業の主旨からいって、司書が乗らなければいけないという条例とかは関係ないのではないですか。何が言いたいかと言いますと、司書の方じゃなくて、思い切った委託による、そうした司書の資格を持たない方でも十分可能だという。

(説明者)

司書は、やっぱり業務の中で図書の紹介であるとか、そういうこともありますので、誰でもできるというわけではないと考えております。

(仕分け人)

あと、例えば具体名を挙げてお聞きしますと、穂谷の方は氷室の分館に行けばいいということなんでしょうか。ステーションを利用しない場合。

(説明者)

ステーション、もしくはここの氷室の分室ということになります。こちら地図見ますとこの地域、山間部でございますので、どれだけの方がお住みになるかということとはまたまちづくりの方と関係してしますので、行ってないところは地形であるとか、お住まいの状況というのがありますので、必ずしも圏域に丸が付いているということにはなっていない状況でございます。

(仕分け人)

その点で言わせていただければ、むしろその山間部とか図書館利用が難しい方のところへ行ってあげるべきじゃなんじゃないでしょうかね。この円の中にまだ残ってるステーションってのがありますが、これもここ、今後どうしていくんですか。

(説明者)

先ほど空白地域のところでご説明させていただいたんですけども、丸の中にステーションが入ってるのではないかといったところなんですけれど、これにつきましては、地域の中で距離的なものもあるんですけど、実際には大きい道路で分断されてる地域であったり、鉄道、河川等での地理的な理由があって、行くことが困難であるという判断から、ステーションを配置しております。

あと、山間部等の方のステーションの設置についてはどうかということなんですけれども、ステーションそのものは地域からの要望で作ってるところが多々ございます。そういったことからまた希望等によりまして、駐車場所であるとか利用実態等を踏まえまして、検討していくことが大事かなと考えております。

(仕分け人)

あと、正職員が平成 20 年度決算、平成 21 年度決算、平成 22 年度予算ということで、4.1 人、4.1 人、22 年度に 2.1 人になったということで、この 21 年度の運行実績と 22 年度の運行実績とで、どんな変化があったと認識されていますか。

(説明者)

22 年度の方が人数が少なくなってるということですね。こちらにつきましては、自動車文庫事業の中身を検討いたしまして、ルートの変更であるとか、自動車文庫でやる業務の内容を見直した中で、22 年度当初から 1 名減でいけるかなということで、減らしてやっているところがございます。

(仕分け人)

これに対して市民からどんな声が出てきたと認識されてますか。

(説明者)

ステーション数そのものは変わっておりません。

(仕分け人)

ステーション数が変わってないのはわかるんですけど、正職員が減って 1 名減になったということで、何かサービスの質が下がったとか、こういった取り組みが減って寂しいとか、そういった話とかって出てきたりしましたか。

(説明者)

それはございません。

(仕分け人)

元々、減ってしまえば21年度の4.1人で、再任用職員が1人付いた状況とサービスの質的には22年度も変わってませんよということによろしいですか。

(説明者)

そうですね。ステーション数は21年度からは1か所減っておりますけども、あと、今言いましたルートを見直したりして変更しておりますが、サービスそのものについて悪くなったとかサービスが低下したとかそういったことはお聞きしておりません。

(仕分け人)

あともう一つ、これもし仮に全面委託した場合、どんな影響が出るというようなお考えをお持ちでしょうか。

(説明者)

委託といった場合、自動車文庫事業の中には、運転して行って現地で貸出・返却を行うというのもあるんですけど、実際には行くまでの図書の選書であるとか、帰ってきからの返却の手続きであるとか、こういったところが実際に委託を検討する場合は整理ができてないというふうに認識してるところです。

それと委託の考えにつきましては、自動車文庫事業のみならず、図書館全体の運営経費の検討の中で削減していくことが重要だと認識しておりまして、いわゆる委託でコストダウンできるというだけで、このことについて今委託をするという考えはございません。

(仕分け人)

今のおっしゃった話だと、例えば選書の部分だけ職員の方がやって、回していく貸出、返却の部分だけ委託っていうことももちろんできると思う。役割分担ということでは十分可能ではないかと思うんですが、この辺いかがでしょうか。

(説明者)

実際に2か所やられてる市がございますので、それは可能だと思います。

(仕分け人)

検討はされると。今後そういった検討はされないんでしょうか。

(説明者)

今ちょっとこの論議の場ではわからないんですが、図書館の運営に関して、今年度、大きな方針だとか、どういうふうにしていくかっていうものを今作成しているところでございます。ここでいただいたご意見を含めまして、将来に向けたビジョンを作成していく中で参考にさせていただきたいなと思っております。

(仕分け人)

例えば、学校って図書室がありますね。学校が今どこにあるのか、この地図の中でちょっとわからないんですけど、学校図書室の開放みたいな取り組みってというのはいかがでしょうか。

(説明者)

学校図書室の開放につきましては、図書館の方から方針として出せるものではありませんので、検討ということはしておりませんが、一度市民の方にも開放する形で、招提小学校を開放した経過がございます。が先ほども申しましたように、市民の生活動線と学校が必ずしも同じ自分の生活ルートの中に入っていないというのもありまして、地域の方の利用が少なく、結局閉めたという経過もございます。

(仕分け人)

今おっしゃってることを伺いまして、結局中央図書館さんと学校図書室っていうのは連携して、今特に何か連携してやっているわけではないということでしょうか。

(説明者)

図書館と学校との連携というのは団体貸出とか、配送サービスの関係で連携はしております。

(コーディネーター)

2台車がありまして、1台48年と49年ということなんですが、結構痛んできてほぼ限界で、メンテナンスの費用も結構かかるんじゃないかなと思うんですが。まだまだ車は走り続けて大丈夫なんですか。

(説明者)

経費のところでは点検以外のところを出してる部分があるかと思いますが、燃料費の他に車検とか補修ということを含めて、そういう部分でやっております。まだ車は使える状態でございます。自動車を購入しておりますのは、資料でちょっと見ていただけたらいいなと思いますが、ひなぎく号の写真が載っております下でございます。導入年月日は1号の方が平成12年8月、2号の方が13年3月といったところでございます。



(仕分け人)

今の話に関連するんですけど、これを10年保険、賠償保険が載ってないんですけど、非常に高いと思うんですが、そこはどうなんでしょう。

(説明者)

市全体の車の保険の中に入るという認識をしております。

(仕分け人)

車固有の保険じゃないですか。賠償保険というのは。

(説明者)

保険には入ってるんですけど、市の保険の予算の中でまとめて上げているので、この予算の中には載っておりません。

(仕分け人)

だけどそれを引っ張り出せば、このナンバーの車はいくらいくらというのが出るはずなんですよね。その経費は非常に高いですよ。おそらく、無事故であればかなり安くなるんですけど、通常7、8万円、8万円くらい、いやもっとかかるかもしれませんね。そしたらこの燃料とか修繕費以上に、2台分ですから、そこはそういうように理解していただかないと、これではわかりませんね。

(仕分け人)

これ一台いくらなんですか。ひなぎく号2号の方は比較的最近ですね。4,330ccという車、中は特殊な仕様も入ってくると思うので。

(説明者)

1号の方が約1,000万円、大きい方の2号が1,600万円ということになっております。これは、ちなみにご寄附いただいたものです。

(仕分け人)

寄付してもらったんですか。

(説明者)

はい。

(仕分け人)

これからも寄付してもらおう見込みがあるわけですか。

(説明者)

それはわかりません。

(仕分け人)

それは運営費まで含めるとかなりの金額ですね。

(仕分け人)

実際に重要なんですけれども、各ステーションで、ちゃんと室内の場所があるところだと別なんですけれども、外というか、実際にそこへ来て、何時間くらい止まっているんですか。

(説明者)

1か所 40分から1時間ぐらいの間です。

(仕分け人)

ずっとそこで本を立ち読みじゃないですけど、読んでるっていうことは少ないんですか。

(説明者)

利用者の方ですか。どういった本を借りようかなということで、本を実際に手に取って選んだり、本を返しに来られる方もございますが、そこでずっと読んでるという場所ではございません。

(仕分け人)

そうしたら、昨年度の利用の分で一番多いステーションで3,000冊とか4,000冊なんですけども、これ一人借りられる冊数で、人数じゃないですよ。借りた冊数ですよ。12冊まで借りれますよね。単純に考えると1回に来られる方10人とか20人とか、多いとそんな感じですかね。少ないとこだったら来られるか、来られないかの状態なんですよね。読みたい本、借りたい本を借りに行き返すだけっていうのでしたら、例えばですけど、ネットで注文して、そこに郵送で送るとかそういうサービスみたいなものにもした場合は、車走らせるのと、どうなんでしょう。

(説明者)

実際にこの自動車文庫を利用なさってる方といいますのが、高齢の方であるとか、子どもさんが多く、実際に自動車文庫の中でどういう本があるかっていうのを見ていただく中で、手に取って選んでいただくことが大事なのかなって思っております。

そこでは、またこんな本が見たいということでリクエストなどされまして、2週間後になってまいりますけど、次来るときにということで、リクエストを受け付けているところでございます。

(仕分け人)

2週間で本返しますよね。ということは大体リピーターの方なんですか。同じ方が利用されているんですか。

(説明者)

よく借りに来られる方がステーションに来るというのは実態としてあります。

(コーディネーター)

私からもお伺いしたいんですが、この自動車図書館、自動車文庫以外に、図書館全体の貸出冊数じゃなくて、一人当たり人件費も入れてというのはわかりますか。総事業費を利用者人数で割った図書館全体のなんですか。

(仕分け人)

ちょっと持ち合わせてきておりません。貸出コストのみを把握してきておりましたので。

(コーディネーター)

ちなみに、ここに総事業費があって、自動車文庫の利用者は平成21年度が2,343人とあるんですね。貸出冊数で割らずに、利用者人数で割るコストの出し方が割と一般的なんですけども、これ平均すると大体全国の図書館1,000円近辺が大体平均になってくるんです。これ割ったらいくらになりますか。

総事業費が、2,348万2,000円、これ平成22年度でしたね。21年度は3,696万3,000円。利用者が平成21年度2,343人ですよね。1万5,000円ですよ。15倍、普通の図書館の経費にかかっている1人当たりのコストが。そこまでして、これいりますか。でね、もう一つ言うと、入院児童に対しておはなし会をやってる。ここすごくいいことだと思うんですよ。長期間療養されてるお子さんに対して、本を持って行ってお話ししたり、それはいいとしますよね。

だけど、色んな方法がある中で、これじゃないと達成できない目標ですか。

それほど枚方市って財政豊かなんですか。豊かだからムダがあっていいとは思わないんですけど。

(説明者)

コストの方、最初のご質問の部分ですが、今資料を持ち合わせてなくて申し訳ございません。

(コーディネーター)

病院でのおはなし会、それはいいことだと思うんですけども。

(仕分け人)

そのおはなし会というのは職員がやるんですか。

(説明者)

はい、そうです。

(仕分け人)

普通はそれボランティアの方がやりますよね。普通は図書館って、今やっぱり人件費の塊だから、比較的きれいな仕事だし、本にも親しめるってことで、色んな市民の方が非常勤で仕事されたり、あるいはボランティアで。私以前草加市ってところで仕事してましたけど、草加市の場合には年間 100 万人利用する図書館なんですけど、職員が 9 名なんです。で、臨時職員さんがいて、さらにボランティアスタッフが無償ですが、140 人くらいいるんです。そこが読み聞かせとか、地域に出て行って、そういう活動をされてるんですよ。だからそこまで職員さんがやられるのはちょっとなかなかユニークかなと思いますね。

(説明者)

おはなし会等については、今おっしゃっていただいたようなボランティアのグループで、枚方市も同じように実施しております。市の方で主催してるおはなし会もありますので、病院とかで外に出にくい子どもさんもおられますので、行ったときに何回か設定させていただいているということでございます。

(仕分け人)

例えば、楠葉とかでリクエストのあった本を別の図書館が持ってたらということもあって、色々と市内各地何台も車が貸し借りの本を運ぶのに動いてるんですけども、ちなみに何台くらいあるんでしょうか。

(説明者)

それは委託になっています。

(仕分け人)

移動図書館車まで来ることができるわけですから、皆さん元気な方ですよね。その方が市内に 8 つある図書館に来れない理由ってのは何ですか。

(説明者)

先ほど申しましたように、地理的な理由等があるからです。

(仕分け人)

具体的に来れない理由があったら言ってください。

その方に対して税金をかけてサービスをするような、来れない特段の事情があるのか言ってください。

要は、その人のために市民全体の税金を使ってるわけですから、国費も何も出てないでしょう。図書館全体広く使ってて、さらにこういうスペシャルサービスやってるわけですから、スペシャルサービスをしなきゃいけないのは特段の理由があるからですよ。その人が来れないなら来れないでしょうがないでしょう。この中で障害を持ってたりして来れない人が、実際にはそういうふうに行けないという人が何割くらいいるのか。実際ほとんどおられないでしょう。ほとんど元気な方なんじゃないですか。

(説明者)

実体として、その数字を把握してるわけではございません。申し訳ございません。それと当初から、全域サービスという考え方が枚方市にございまして、移動図書館車で市内全域をネットワークしていくという考え方が、昭和 26 年の大阪府の事業のときから続いています。

(仕分け人)

だから、以前から続いているから、ずっとこれからも続ければいい時代なのかどうかも含めた話でしょう。皆さん方、これからも続けたいとおっしゃっているわけですけども。市民の税金を使って、その人のために特段のスペシャルサービスをするとおっしゃってるわけでしょう。

(コーディネーター)

評価シートの方ご記入いただきましたか。

それでは、評価の方に移りたいと思います。事業番号 31、自動車文庫運営事業について、評価を行いたいと思います。1 番不要(2 人)、2 番 民間(0 人)、2 番 国・府・広域(0 人)、3 番枚方市・要改善(4 人)、4 番枚方市・現行通(0 人)、班の結論は、枚方市・要改善ということになりました。

不要についてご意見いただきたいと思います。

(仕分け人)

税収が減っているんですよ。特にこういう郊外都市はベッドタウンだから、これからものすごいピッチで進んでくるんですよ。市民の行政に対するニーズは、もっともっと切実なものがたくさん出てきてるんですよ。だからニーズに応えることは優先であって、ウォンツに対応するために税金を使う時代じゃもうないんですよ。そのことがこういう問題ですよ。

本当に必要であれば、その人に図書館から配本すればいいんですよ。郵送すればいいわけですよ。インターネットで予約していただいて。そこまでやらなきゃいけないニーズってのはあまりないんです。所管でぐるぐる回しているそういう状況の中で、その他にもすべて同じことが当てはまるのでね、これだけの問題じゃないわけですよ。どこまで市民のウォンツに応えるかという話で、これは利用されてる市民からすれば、あとは決まってますよ。ただそれはその人がお金を出してるんじゃないじゃなくて、市民全体のお金を使ってるということを前提にやっぱりこれからのサービス考えていただきたいと思います。

(コーディネーター)

要改善についてご意見をいただきたいんですけども、ご意見のある方。

(仕分け人)

私は、運営方法に問題があると思います。なので、その正規職員はこれだけかかるとか、もっともっとコストカットして、さらに今、中山間地域の人たちが、本当に東の地域の方々、何人がいらっしゃると思うんですけど、そういった人々に機会を与えるとして、市民の文化レベルを守るという意味で、図書館の雇用に対するものをやっているんだという説明をちゃんと付けて、さらにステーションの数をもっと減らして、もっとコスト下げてでやってほしい、そういう意味で要改善です。

(コーディネーター)

よろしいですか。それでは事業番号 31、自動車文庫運営事業について、結論は要改善ということにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。